

株式会社アックスヤマザキ

現在の社長は3代目。

ミシンの楽しさを
知ってもらうために
毛糸で安全に縫える
キッズミシンを開発



代表取締役
山崎一史さん

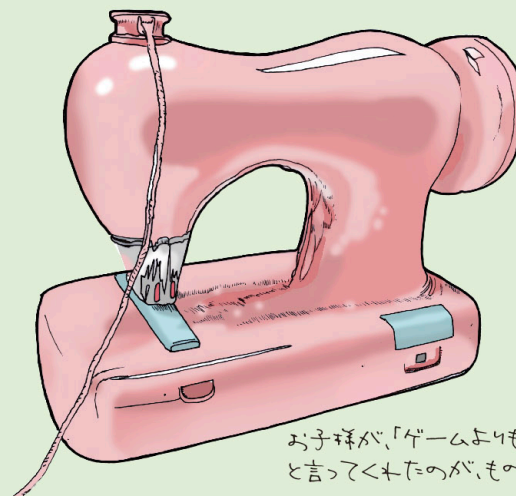


取締役 チーフ
山崎寛之さん

ひと昔前は、一家に一台ミシンがありました。今ではミシンを持たない方も。ミシンメーカーとしてやるべきことは、ミシンの楽しさに振り向いてもらうことだと考えています。学生時代の家庭科でミシンに対する苦手意識を持つ方が多いと分かり、子ども時代にミシンの魅力を知ってもらう必要があると痛感。そこで、子ども用ミシン「毛糸ミシンふわこ Hug (ハグ)」を開発。毛糸をひっかけ、特殊な針で布や紙が縫える子ども用ミシン。バッグやポーチ、シュシュ、マスコットなどを簡単に作れ、想像した以上に話題を集めています。

今後は子どもだけでなく、子育て中のママ、高齢者でミシンを持っていない層に振り向いてもらえる商品づくりをしたいと思っています。

ご家庭で気軽にお使いいただけるミシンを作りたい、という創業時の思いは今も変わっていません。これからも、基本的な縫いにこだわったシンプルな機能を持つミシンを提供し、長く使い続けてもらうためのアフターフォローも同時に行っていきます。



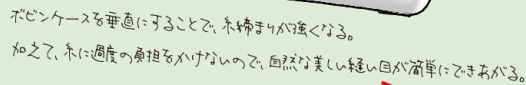
お子様が、「ゲームよりも、このミシンがいい!」
と言ってくれたのが、ものすごくうれしかったです。

生野区に、シンシ製造の会社があるのをご存知だろうか。その会社が、アックスヤマザキだ。創業者が世界初の実用ミシンを製造した「シンガーミシン」の関連会社で働き、のちに独立。昭和 31 年に株式会社山崎ミシン製造所を設立、平成 4 年に現在の社名に変更した。創業当時はミシン 1 台 1 台を手作りしていたが、その後、量産体制を整えていった。ミシンはもともと、鉄やアルミなど金属を使用して作られていたが、より安価で軽いものを求められるようになり、現在では骨格部分には金属、外側を樹脂で被ったものに。ただ、糸を使って縫うための構造自体は、ミシンが生まれた約 170 年前と変わっていない。ミシンは糸の太さや種類、縫う生地の厚みなど相手に応じて、糸の強さや調子を変えていくといった微調整が必要。その調整力を可能にするのが構造部分の部品のかみ合わせで、そこに同社の長年の技術が活かされている。

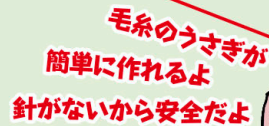
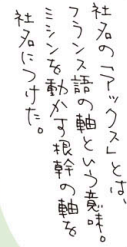
昔は、マシン販売店が修理の窓口になっていたが、そのような店が街から消えた今、修理ができず困っている方も多いそう。そこで、同社では他社の製品も含めた修理にも対応。対応する部品さえあれば、他社のものでも修理可能だと言う。このようなアフターフォローも、マシンに興味を持ち、購入へとつなげたいという企業努力の現れ。徹底したユーザー視点で、同社の最大の武器かもしれない。

http://www.axeyamazaki.co.jp/
〒544-0022 大阪市生野区舎利寺3-12-5
TEL 06-6717-5851 FAX 06-6741-7875

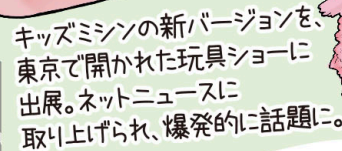
事業内容／縫製機械等の製造販売



若いわふにとつては、
お子様の入園費に必要なものな
作る道員。
平敷のえにとつては、
趣味の洋裁のための道員……
など、同じミシンでも要するが違ふ。
そのまづつてに対応した使いみち
付属品がなければならぬ。



マシンをお買い上げいただいた後も、本社工場にて
 一台一台にわけて点検・修理を承っております。
 未長く愛着を持ってお使いいただけるよう、
 万全のサポート体制で



ポルシェにミシンを10台積んで、
修理してほしいと来たらT=えも!

高いデザイン性、
商品力が認められ
数々の賞を受賞!

優れたデザインに対して贈られる「グッドデザイン商品選定賞」を、これまで何度も受賞。2016（平成 28）年には、日本ホビー協会から「ホビー産業大賞 経済産業大臣賞」を、キッズデザイン協議会から「キッズデザイン賞」を受賞している。

